

# 台湾スタートアップ・ベンチャー/ヒアリングレポート

Taipei Computer Association 東京事務所 駐日代表 吉村 章

## ■台湾スタートアップ・ベンチャー、3つの特徴

9月に台北、桃園、台中、台南など各地を回り、現地ヒアリングを実施。このレポートではそのヒアリング結果をもとに台湾スタートアップ・ベンチャーの特徴をまとめてみたい。また、レポートの後半では訪問した企業のサービスやソリューションについても紹介する。ヒアリングの対象企業は今年6月に行われたスタートアップ・イベントである InnoVEX (イノベックス) で注目を集めた企業から選んだ。特に、InnoVEX でアワードを受賞した企業、またはアワードの候補になった企業に注目し、最終的には日本とのビジネスに積極的な企業をヒアリング候補企業とした。

台湾スタートアップ・ベンチャーの特徴について、結論から述べるとポイントは次の3つの点にまとめられる。

第一に、台湾スタートアップ・ベンチャーはハードウェアに「強み」がある企業、またはハードウェアとの組み合わせで「強み」を発揮するサービスやソリューションを提供する企業が多い。そういう意味ではシリコンバレー発のベンチャーのように既存の慣習を打ち壊す破壊的イノベーションを起こすのではなく、これまで培ってきたモノづくりの「強み」と経験を活かしながら新しい分野に挑戦する企業が多い。

第二に、台湾のスタートアップ・ベンチャーが得意なのは「最先端技術」を駆使したビジネスモデルの構築ではなく、「実用先端的な技術」を活用したりバンドル型 (Rebundle)、アンバンドル型 (Anbundle) の企業である。台湾のスタートアッ

プ・イベントである InnoVEX (イノベックス) の出展企業も同様に最先端や高付加価値を競い合うのではなく、実用先端的な技術を活用したリーズナブルなコストでユーザーフレンドリーなサービスやソリューションを展開する企業が多かった。

第三に、多くのスタートアップ・ベンチャーは IPO (Initial Public Offering) を目指すのではなく、大手ベンダーとの協業により (またはその傘下に入ることで) 継続的な企業経営を目指し、腰を据えたモノづくりに取り組む企業が多い。同時に大手ベンダーが持っているネットワークを活用して、欧米を主力市場とした事業展開を目指す。特長はこのような点にまとめられる。

※ InnoVEX (イノベックス) とは 2016 年から Computex (コンピュテクス) に併設されたベンチャーイベント。詳しくは機関誌「交流」7月号 vol.928 をご覧いただきたい。



写真1 Computex は2018年6月5日(火)から9日(土)まで会期5日間、出展企業1,602社、5,015小間、海外168の国と地域から42,284人のバイヤーを集めて開催



写真2 InnoVEX (イノベックス) は2016年から Computex に併設。6月6日(水)から3日間の会期で開催。今年は台湾と世界21の国と地域から388組の企業や団体が参加

## ■ 2015年が変化の節目になった年

2015年はさまざまな意味で業界の変化の節目になった年と言えるだろう。IoT (Internet of things) が業界で本格的に取り上げられるようになり、Computex (コンピュテクス) でも IoT 関連の技術や製品が目立つようになった年でもある。従来、台湾大手ベンダーのビジネススタイルは、OEM/ODMなどで培ってきた量産技術を活かして、パソコンやタブレットなどハイテク IT 端末を大量に生産し、欧米を中心としたグローバル市場に供給してきた。

しかし、社会のさまざま分野で IoT が本格化し、クラウドサービスが従来のビジネスモデルに変革をもたらし始めると台湾大手ベンダーの OEM/ODM 中心のビジネスモデルにも陰りが見え始めた。大量にモノを作って売る時代ではなく、それぞれの分野に特化したソリューションが注目を集めるようになってきたからである。

今日、台湾では Smart (智慧・・・) が重要なキーワードとなっている。Smart・・・の文字があらこちらで眼に留まる。たとえば、Smart home (家電)、Smart office (オフィス)、Smart factory (工場)、Smart agri (農業)、Smart ve-

hicle (車両)、Smart health (健康)、Smart medical (医療)、Smart education (教育) など。何でも Smart を付けるのもどうかと思うが、Smart がひとつのトレンドになっている。IoT を使って各社とも新しいサービスやソリューションの開発にしのぎを削る。

イメージだけでなく、各社の製品も大きく様変わりした。Computex の出展製品を見てみると、特に大手ベンダーは従来のパソコンやタブレットなど IT 端末中心の展示からそれぞれの特色を活かしたサービスやソリューションの展示が目立つようになってきた。



写真3 パソコン大手 Benq (明基) は無人コンビニのシステムを出展。顔認証のゲートから店舗内の清算レジまでブース内に無人コンビニの買い物空間を設けてデモを行っていた



写真4 こちらも Benq (明基) ブース。ロボットアームを出展、スマート・ファクトリー分野にも積極的に取り組んでいる姿勢をアピール



写真5 MSI(微星)はスマート・ビーグル、テレマティスのソリューションを出展



写真6 MiTAC(神通)は図書館システムのソリューションを出展

地でスタートアップ・ベンチャー育成の動きが本格的に広がりを見せている。

台湾でも2015年5月「台湾矽谷科技基金投資計畫」(Taiwan Silicon Valley Science and Technology Fund investment Plan)を策定、2018年2月からは「優化新創事業投資環境行動方案」(スタートアップビジネス投資環境最適化に向けた行動方案)が進められるなど、その動きが本格化している。

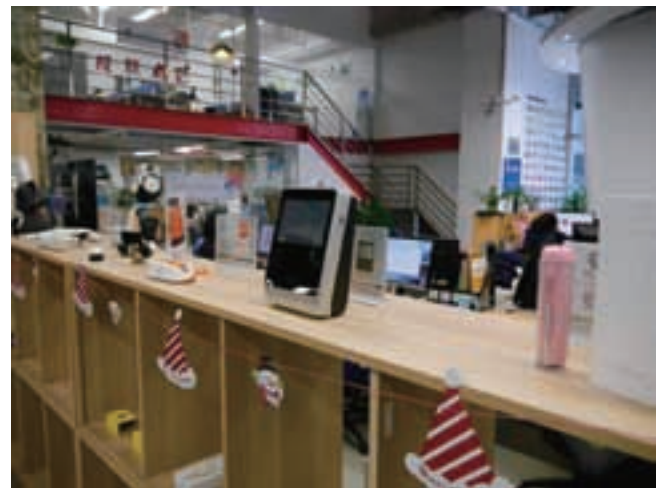


写真7 ハードウェア・ベンチャーで注目を集めている中国/深セン

### ■注目を集めるスタートアップ・ベンチャー

IoTと時を同じくしてスタートアップ・ベンチャーが注目を集めるようになった。中国では2014年9月ダボス会議における李克強首相の提言をきっかけに本格的なスタートアップ・ベンチャーの支援が始まった。「生態圏」(エコシステム)がキーワード、各地に「創業園」(インキュベーション施設)が作られ、豊富な資金投下のもとでスタートアップ・ベンチャー育成が始まった。

2015年には「中国・中小企業青書2016」で経済発展の新たな推進力としてスタートアップ・ベンチャー支援が明文化され、同年アリババが創業者基金を本格的な運用を開始。2016年には深センで「深圳湾科技生態園」に代表されるように中国各



写真8 InnoVEX2018のアリババ創業者基金ブース、InnoVEXでも存在感を示していた

## ■スタートアップ・ベンチャーに期待

ビジネスモデルが大きく変化する中で台湾の大手ベンダーは戦略の転換を求められている。IoTの新しい分野で各社が製品開発にしのぎを削っている点は先に述べた通り。新たな技術革新に活路を見出そうと Smart（智慧）の各分野で新たな戦略を模索している。

「垂直統合」でモノづくりを進める日本とは違って、台湾ベンダーのモノづくりは「水平分業」が特徴。ベンダー間の横の連携を重視する。進んだ技術やノウハウがあれば積極的に取り込もうとする。これは大手も中小も同様だ。こうした点は、開発から生産、販売、アフターサービスまで一気通貫で事業を転換する日本企業と比較すると大きな違いである。

イノベーションの領域でも横連携を重視。台湾でのインタビューでは多くの業界関係者も「台湾の大手ベンダーはスタートアップ・ベンチャーを取り込むことがイノベーションの近道と考える」とコメント。たとえば製品開発を支援したり、スタートアップ・ベンチャーをそのまま開発部隊に抱え込むというケースもある。社内でスタートアップ・ベンチャーを育成するというよりは現実問題として出資をしたり、人を送り込んだり、場合によっては M&A で傘下に収めるといったケースも少なくない。スタートアップ・ベンチャー側もビジネスをいち早く立ち上げるために大手ベンダーの資金力に期待したり、量産技術や欧米への販路に期待したり、魅力は大きい。

## ■スタートアップ・ベンチャーのエコシステム

図2をご覧ください。この図は台湾スタートアップ・ベンチャーを知る上で事前に整理しておきたいポイントをまとめたものである。まず、AタイプからDタイプまで、この図の見方を説明したい。図を中央から時計回りにご覧いただきたい。

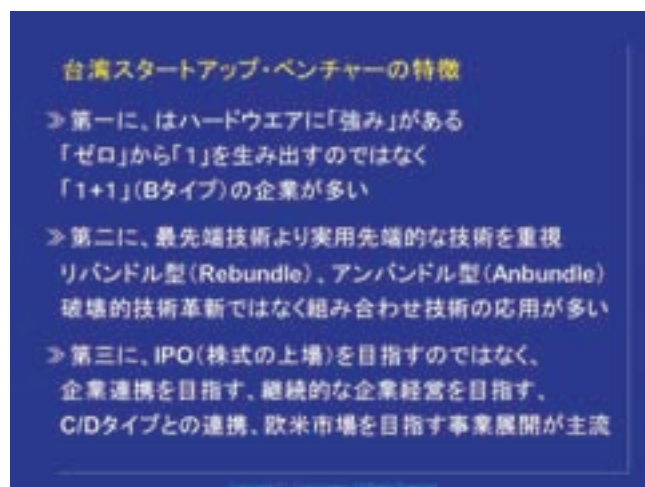


図1 台湾スタートアップ・ベンチャーの「強み」×3



図2 スタートアップ・ベンチャー/エコシステム

まず、中央の A タイプの企業とはイノベーションを起こす企業である。ドーナツ型の円の中央に置いてみた。基礎研究やその成果から新しい製品やサービスを生み出す企業、または新しい価値観を生み出す企業、または技術的イノベーションを起こす企業である。言い換えると、これは「ゼロ」から「1」を生み出す企業であるとも言える。

B タイプの企業とは、既存の技術を活用しながら新しい価値観に基づいた製品開発を行う企業、または技術革新から新しい製品を生み出す企業である。たとえばリバンドル (Rebundle)、アンバンドル (Anbundle) といった製品開発も B タイプに分類する。

リバンドル (Rebundle) とは既存の技術の再構築、組み合わせのこと。アンバンドル (Anbundle) とは使われている技術を分解して切り離し、必要なものだけを活用すること。(詳細は機関誌「交流」8月号 vol.929を参照) 台湾では破壊的なイノベーションを起こすのが目的ではなく、組み合わせ技術を応用して技術革新を目指す。台湾のスタートアップ・ベンチャーに多い。既存の台湾大手ベンダーが培ってきた量産技術、さらに欧米市場を中心としたグローバル市場への販売ネットワーク、こうした「強み」を活用しながらビジネスを展開する。

言い換えると「1+1」を「2」にしたり、「2+1」を「3」にしたり、足し算や引き算をする企業と言ってもいいだろう。繰り返しになるが、台湾では最先端の技術、革新的な技術の開発というより、必要十分なスペック、かつリーズナブルなコストで製品開発を行う実用先端的な技術開発をする企業が圧倒的に多く、それがスタートアップ・ベンチャーも含めて企業の大きな「強み」となっている。

たとえばモーターやプロペラの回転を制御するSoC (System on Chip) を開発する。このSoCを使った小型・軽量の基板を搭載したドローンを開発する。これらはAタイプに分類。さらに、このドローンを災害対応に使う、非破壊検査用のモデルを作る、宅配用のドローンを開発する。機構部品の開発だけでなく、ソフトウェアでの制御、AIを活用した機能の追加など新しい技術革新を起こす。これらはBタイプの企業に分類する。

Cタイプとは、プロトタイプの開発または小ロット生産に対応可能なベンダーである。製造業の層が厚い台湾ではワンスポット・サービスで1台~2台というプロトタイプの製作から10台~100台といった小ロット生産まで幅広いニーズに対応できる企業群がある。(具体的な数量は製品によって個別に要相談となる) こうした点は中

国のスタートアップ・ベンチャーの聖地とされる深センでも同様である。

Dタイプは主に大手量産ベンダーである。OEM/ODMなどでパソコン、タブレット、スマホなど世界市場向けに量産モデルを大量に供給してきたベンダーである。生産拠点は主に中国で量産技術と欧米を中心としたグローバルな販売ネットワークを持つことが「強み」である。言い換えると、Cタイプは繰り返し足し算や掛け算をする企業であり、Dタイプは2乗倍やn乗倍の掛け算をする企業とも言えるだろう。

台湾のスタートアップ・ベンチャーは主にBタイプのハードウェア指向が多い。最先端の革新的な技術ではないが、リーズナブルなコスト、使いやすさ、手軽さ、ハードウェアとの組み合わせ、この3つの点に「強み」を持つ。プロトタイプの製作や小ロット生産では国内に分厚い層のCタイプの企業群がいる。さらに中国に大工場を持つDタイプの企業とのアライアンスでビジネスのグローバル展開も可能だ。こうした層の厚いベンダーがそろっている環境が台湾の「強み」となっている。(誌面の関係で詳細な説明は別の機会に譲る)

こうした特徴は深センのスタートアップ・ベンチャーにも見ることができる。ハードウェアに「強み」を持つスタートアップが多いことも共通点だ。違いを挙げるとすれば、深センのスタートアップ・ベンチャーは主に中国国内の市場をターゲットとする企業が多いこと。開発スピードの速さ、さらに転身の早さも台湾以上だろう。(深センとの違い、共通点の比較についても具体的なレポートは別の機会に譲りたい。興味がある方はTCA 東京事務所までお問い合わせいただきたい。2019年2月には今年に続き深センでの「現地ヒアリング」も予定している。いずれこの誌面でもレポートを執筆したい)

ここからは今年9月末に行った現地ヒアリング

で実際に訪問した企業のサービスやソリューションを紹介する。ヒアリングの対象企業は今年6月に行われたスタートアップ・イベントであるInnoVEX（イノベックス）で注目を集めた企業、InnoVEX でアワードを受賞した企業またはアワードの候補になった企業、最終的には日本とのビジネスに積極的な企業から選択した。

## ■ 1 ■ Starwing Technology Co.Ltd.

天奕科技資訊股份有限公司

台北市新生南路一段 50 號 8 F 之 2

<http://www.starwing.com.tw>

人流解析/位置を特定するソリューション。10~30センチメートル単位の精度で位置を特定し、人の動きを追尾する。直径20cmほどの機器を3mほどの間隔で天井に取り付け、人が持った発信機とのやりとりで人の動きを追尾し、位置を特定する。

たとえば、病院で医師や看護師がウェアラブルウォッチ形状の発信機を持ち歩き、病院内でどこにいるか、人の所在の確認、人の配置の確認、今どこでどんな業務をしているか作業の特定などに活用可能。また、移動式の診療機器や医療器具を乗せたワゴンに発信デバイスを装着し、病院内のどこで使われているか位置の特定などにも応用できる。こうした活用は医療分野だけではなく、工場、空港、港湾施設、デパートやスーパーなどの店舗などでも応用が可能だ。

当社は、AoA (Angle of Arrival) 方式を採用し、マルチアンテナ AoA 信号受信機を備えた。これを『ロケーター (Locator)』と呼んでいる。天井の発信デバイスから発信される電波を受信する際にその入射角度を測定。フロアで人が持ち歩くデバイスの位置を高い精度で検出する。信号の間隔は1秒に1回で、パソコン上の画面ではほぼタイムロスなく人の動きが点で表示される。設定を変

えれば人が動いた軌跡が線で表示される。

さらに、地上からの高さを三段階で特定することができることも特徴のひとつ。地上30cmほどの高さ、腕を横にした肩の高さ、手を上に伸ばした高さの3つ。品物に発信機を装着しておけば、倉庫の棚に積み上げた品物がどの位置にあるか特定することができる。

AoA (Angle of Arrival) 方式自体は日本でも研究・開発されており、特に珍しいわけではない。しかし、資金を集め、その技術を実際の実用製品にし、量産に持ち込み、リーズナブルな価格を実現し、普及できる段階にまで持ち込んだ点が高い評価を受けている。この点に注目したい。2018年11月に行われたET2018 & IoT2018展では、ET/IoT Technology Award 2018 特別賞を受賞した。



写真9 ハードウェアとセットで提供するのが台湾スタートアップベンチャーの特徴



写真10 位置だけではなく、地上からの高さを三段階で特定して数字で表示する

## ■ 2 ■ Astra Inc.

盛星科技股份有限公司  
台北市東興路 28 號 14F  
<http://www.astra.cloud>

客層解析に活用できるソリューション、映像解析の AI 技術に強みがある。特徴は次の 3 つ。小規模店舗向け、手間がかからず簡単に設置できる、低コスト。レストランや飲食店、たとえばラーメン店や小規模な食堂など、設備投資に経費をかけることができない小規模事業者向けのソリューションである。IT の知識がなくても誰でも簡単に設置できる。月額 2,000 円前後から利用が可能。使う側の利便性を徹底的に考えたソリューションである。

店舗内に複数のカメラを設置、画像解析により常連客、回転率、時間ごとの男女比や年齢を判定する。設置時にカメラは適正な角度を自動計測し、IT のソフトやハードの知識がなくても簡単に設置できる。データはリアルタイムでクラウドに上げる方法、一度保存してから一定間隔で処理する方法が選択できる。オプションでは男女比や常連客だけではなく、より詳細な条件を付けた解析の設定も可能だ。

「店の前に設置する方法も提案したい」と担当者のコメント。店舗前の人の流れを解析し、集客に役立つ。「たとえば、店の前のポスターやメニューのサンプル（ショウウィンド）に足を止めた人の数をカウントし、入店率を計算したり、足を止めた時間（秒数）を測定したり、応用範囲は広い」とのこと。従業員の営業時間や休憩時間の設定に役立ったり、お客を呼び込むためのディスプレイの改善にも役立つそうだ。

基本料金を月額 2,000 円前後から設定しているという点にも注目。これは店舗の事業者の利用料金ではなく、事業者にサービスを提供する Sier 向けの参考価格である。「できれば東京圏以外の

地域で、事業者向けにサービスが提供できる地域 Sier と連携したい」、さらに「たとえばラーメン屋さんや食堂など店舗経営にアドバイスができる日本の中小企業診断士や IT コーディネーターと組みたい」と話す。事業者向けの実質的な経営アドバイスもいっしょに手掛けていきたいという。もちろん、飲食店だけではなく、他の業種向けにカスタマイズも可能。ウェブカメラやデータ保存用のデバイスなどクライアントが自社で選択したものをすることも可能。コストパフォーマンスのいいハードウェア選択もアドバイスする。



写真 11 3 つの特徴、小規模店舗向け、手間がかからず簡単に設置できる、低コスト。3 人とも日本語が堪能



写真 12 写真はウェブカメラ、ハードウェアはクライアント側が自社で選ぶこともセットでの提供も可能

### ■ 3 ■ ThinkCloud Technology Co., Ltd

雲想科技股份有限公司

台中市西屯区文心路三段 241 號 2 F 之 7

<http://www.thinkcloud.com.tw>

画像認識との組み合わせによるセキュアなサイン認証システム。タブレット上でペンを使って行うサインとカメラで撮影した顔の写真と2つを組み合わせて本人を判定する。利用者はまずタブレットにペンを使ってサインする。サイン形状と筆圧やペンを動かすスピードなどが記録される。タブレットはカメラで顔を撮影。サインと顔の写真を組み合わせた二層構造の記録認証によって、より高いセキュリティ機能を実現した。

ThinkCloud（雲想科技）は医師が立ち上げたスタートアップ・ベンチャー。社長の呉右任氏自身も病院を経営する医師である。現場でより使い勝手のよいシステムの開発に取り組んできた。他にも医療関係のアプリケーションやソリューションをいくつも開発してきている。サイン認証システムもそのひとつで、台湾ではすでに複数の医療機関で採用実績がある。また海外の展示会にも積極的に出展し、2016年にはフランスの「国際巴黎雷平發明展」（国際パリ・コンクール・レピン/Concours Lepine）で金賞とイノベーション・プロダクツ賞を獲得するなど、複数のアワードを獲得している。

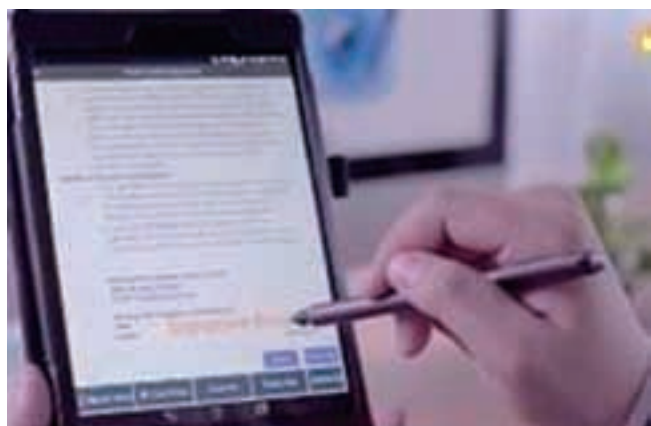


写真 13 画像認識との組み合わせによるセキュアなサイン認証システム

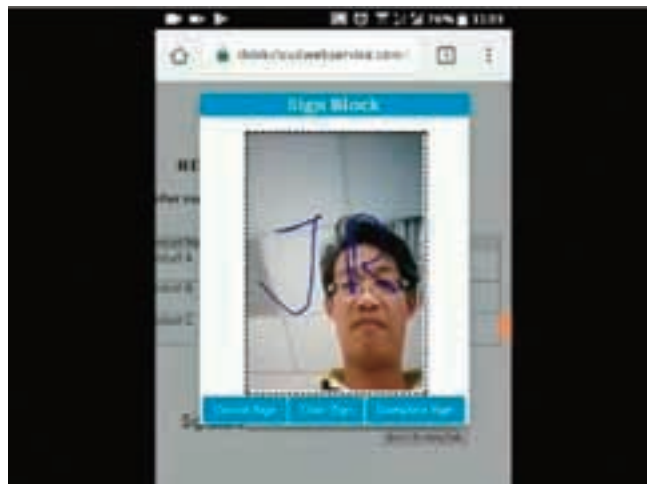


写真 14 台湾ではすでに複数の医療機関で採用された実績を持つ

### ■ 4 ■ DT42Co.Ltd.

灼灼科技股份有限公司

台北市信義區光復南路 429 號 7 樓之 1

<http://www.dt42.io>

複数の画像を同時に判定する AI 画像解析ソリューション。駐車場で車の出入庫管理、店舗を訪れた客の行動解析、高速道路の異常を感知するなど、画像解析技術に AI を組み合わせることにより高度なソリューションを提供する。

たとえば、街中に設置したセキュリティカメラの画像を解析して、人の動きが「けんか」をしているのか、他の動作なのか判定する。「けんか」と認識されるとアラームで管理者に通知し、警備員が駆け付ける仕組み。

たとえば、足を滑らせやすい場所にカメラを設置する。カメラの映像に映った人が、足を滑らせて転んだのか、他の動作なのか。たとえば、ケアハウスに入居するお年寄りが転んだのか、単に横になったのか。AI が学習結果をもとに判定する。

また、高速道路では動物が道路を横切ったとか、車両からの荷物が落下したとか、異常な運転をする車両を見つけ出したり、路上にある落下物の危険性を判定したり、AI と映像解析により判



断して管理者に通知する。ひとつの映像で複数のポイントをフォーカスし、それぞれの状況を解析して AI が判定する。



写真 15 ひとつの映像で複数のポイントをフォーカス、同時に判定する AI 画像解析ソリューション、ハードウェアもセットで提供可

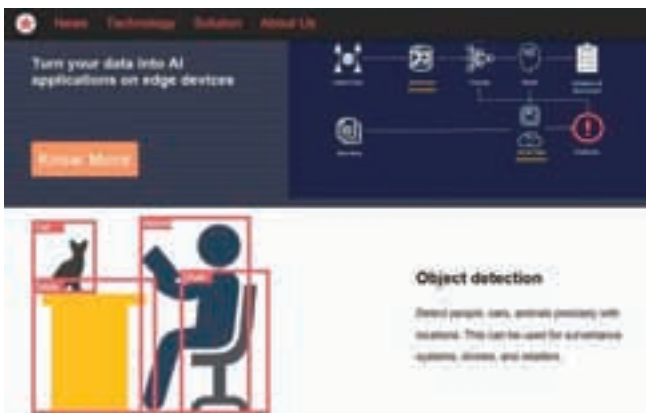


写真 16 AI が映像解析の結果を学習し、より精度の高い、きめの細かい解析と判定をする

## ■ 5 ■ SWISYS CO.,Ltd

瑞麗系統科技有限公司

台南市北区開元 442 巷 26 弄 2 號

<http://www.swisys.com.tw>

車両の整備、エンジンのチューニングなどに使う OBD II を活用した製品。大学発ベンチャーの OBD II ブリッジモジュール。OBD (On-board diagnostics) とは、自動車の自己診断機能で世界

各国のメーカーが国の枠を超えて、車両の主要部品が故障発生時には警告灯を点灯させるなど、車自身に搭載されている診断機能。自動車各部に取り付けられた ECU (Electrical Control Unit) にプログラムが組み込まれ、DLC (Data link coupler) と呼ばれる同じ形状・ピン配置の接続コネクタと同じ故障コードを使って自己診断の上で異常があれば故障と判定し、ユーザーに伝える。

Swisys (瑞麗系統) の製品はそのブリッジモジュールで OBD II から取り出した情報を解析して、エンジンのピストン・シリンダーの動きやブレーキの使い方などから、運転者の特性を判定する。走行スピードや燃費といった基本データだけでなく、運転者のアクセルの踏み込み方やブレーキを使うタイミングなども解析できる。「いつもより乱暴な運転をしている」とか、「燃費を考えない運転をしている」など AI が判断し、運転者の運転データを記録し、必要に応じて警告を行う。データはクラウドで管理。トラックやバス会社が社員を管理するために活用したり、保険会社とタイアップしてデータの活用方法を検討したり、さまざまなデータ活用方法が検討されている。

Swisys (瑞麗系統) は大学発ベンチャー。台南市にある南台科技大学のスタートアップラボに開発拠点がある。南台科技大学の電子行程研究所/車用電子研究中心の唐経洲教授を中心とした学生ベンチャーだ。大学の校舎の片隅にガレージがあり、実験用の車両が何台も置いてある。まさにガレージで創業した若者たち。(目指すはジョブス) 実際に台湾の自動車メーカーの提携による共同研究が進んでいて、データの解析、精度の確認、データ活用方法の模索が進められている。

ガジェット的な活用方法としては、フロントガラスにデータを映し出すヘッドアップディスプレイでの活用やドライブレコーダーとのデータリンク、SD カードで記録を取るデータメモリーボックスを開発するなど市販化に向けた製品開発も進

めているとのこと。ジョブスを目指す(?)若者たちの活躍が楽しみだ。



写真17 ガレージで創業した学生ベンチャー、目指すはジョブス(?)



写真18 小型のブリッジモジュールを基板から独自開発

## ■ 6 ■ FaceHeart Inc.

鉅怡智慧股份有限公司

新竹市慈雲路 118 號 19F 之 8

<http://www.faceheart.com>

顔の画像からその人の精神状態を判断する AI ソリューション、交通大学発のベンチャー。居眠り運転防止にも活用可能。血圧や心拍数などと組み合わせるとドライバーの健康管理ツールとして活用することもできる。また、怒った顔、笑った顔など、表情からその日の気分を読み取り、心の健康状態をモニターし、ストレス管理のツールとしても使うことができる。

担当者によると「トラック、バス、鉄道、タクシーなど車両を運行する法人向けが主たるターゲット」とのことだったが、東京や大阪など大都市の事業者にはこだわらないという。むしろ、地方で地域密着型の SIer をパートナーにして「地域のニーズに応じた小回りの利いた市場開拓をやっていきたい」とのコメント。たとえば、保育園や幼稚園、デイサービスなどの送迎バス。スーパーやコンビニ、食品の宅配などのトラック。建設車両や清掃事業者の車両、自治体の車両、またはクリーニング業者や不動産業者など車両などが候補に挙げられた。「車両を扱っている事業者はたくさんあるはず。単に居眠り運転防止ではなく、健康管理やストレス管理に役立ててほしい」とコメントする。



写真19 交通大学発のベンチャー、顔の画像からその人の精神状態を判断する AI ソリューション

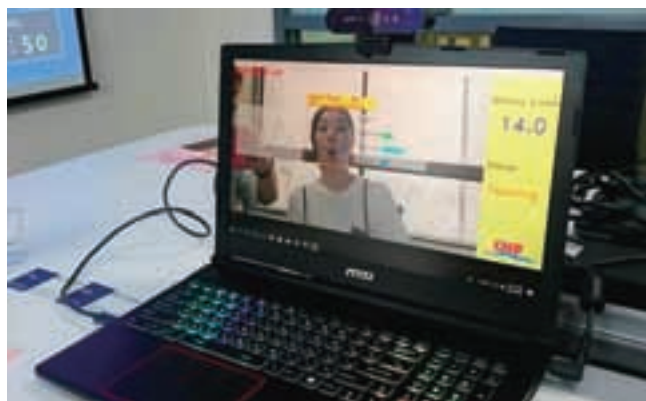


写真20 表情からその日の気分を読み取り、健康管理やストレス管理に役立てる

## ■ 7 ■ Uspace Tech Co.Ltd.

悠勢科技股份有限公司

台北市忠孝東路四段 169 號 11F

<http://uspace.city>

初期投資ほぼゼロから始められる駐車場経営のシステム。写真のような車止めをスマホで管理する。「たとえば、私が繁華街まで歩ける距離に自宅があるとします。車で通勤すると日中は自宅の駐車場は空いています。この空いているときだけ自宅の駐車スペースを貸し出す。」

つまり、空いている時だけ、時間限定で貸し出すことが可能になる。たとえば、貸し出す時間を午前9時から午後6時までに設定するとアプリはこの時間内で駐車場を利用したい人を探して駐車場に誘導する。「オーナーである私は駐車場の利用料金からアプリ使用料を差し引いた金額を売り上げとして受け取ることができるわけです」とコメント。オーナーとしての初期投資は日本円で2万円程度。この金額も経営が軌道に乗って売り上げが計上されるようになるとそれに上乗せになって戻ってくる。

利用者の方は繁華街に車に買い物に行き、アプリを使って空いている駐車場を探す。駐車時間や駐車料金など条件が合えば利用し、決済はスマホで行われる。場所を事前に予約することも可能。万一、予約時間までに間に合わない場合は一度キャンセルして再登録する。(キャンセルをしないと利用料金が発生し、キャンセル料は駐車場のオーナーに支払われる) 入庫、出庫で車止めを作動させたり、利用料の支払いなどはすべて利用者がスマホで行う。

空いているスペースさえあれば誰でも簡単に駐車場経営が始められる。もちろん自宅の駐車場ではなく、空いているスペースを探して少ない資金で駐車場経営に乗り出すことも可能だ。小さなスペースをいくつか探して経営することもできる。

設置はアンカー 3 本で終了。アンカーが使える地盤かどうか、設置に別の施工が必要かどうかはアドバイスする。施工も可能。駐車場の料金設定についてもアドバイスする。使う側も「駐車場が見つからない」「駐車料金が高い」といった駐車場探しに頭を悩ませることがなくなる。利用者にとってもうれしいシステムだ。



写真 21 自宅の駐車場を貸し出し、簡単に駐車場経営を始めることができる



写真 22 車止めの装置は中国の工場生産、低コストと品質の確保を実現

最後に、台湾スタートアップ・ベンチャーを見ていく上で、今後ぜひ注目したい2つの団体と台北で開催されるスタートアップ・イベントを紹介したい。

## ■ 8 ■ Taiwan Tech Arena (略称: TTA)

台北市南京東路4段2號 Taiwan Tech Arena

<http://taiwanarena.tech>

<https://www.facebook.com/taiwantecharena>

台北市内にある松山空港からタクシーで5分ほど。タイペイ・アリーナ（小巨蛋）の中に設けられたインキュベーション施設で市街地の中心部にあり、交通の便の良いロケーションである。スタートアップ支援を目的とするコワーキングスペース、ピッチやセミナーなどさまざまなイベントが開催される多目的スペース、国内外のアクセラレーターが入居するオフィススペース、ミーティング用の中小会議室などがある。さらに、リビング的なリラクゼーションスペース、携帯電話専用の通話ボックス、シャワールーム、仮眠スペースなども備えている。（スタートアップ向けのレンタルオフィスはない）

TTA は 科 技 部 (MOST/Ministry of Technology Taiwan) が主体のプロジェクトで設けられた施設。2018年の6月に開所式が行われ、この9月から本格的な活動を開始した。

国内外のベンチャーキャピタル、台湾の大手ベンダー、金融機関などが協力企業（団体）として名を連ねている。フランス、オランダなどアジアビジネスに積極的なヨーロッパのアクセラレーターのオフィスもある。担当者によると「スタート間もないため実質的な入居はこれから」とのことだったが、「現在入居を希望している団体だけでなく、協賛企業や協力企業は今後も増えるだろう」とのコメントだった。

TTA (Taiwan Tech Arena) は国内外のスタートアップを志すベンチャーにとって、第一歩となる情報収集の場であり、出会いの場である。「今後、2週間に一度程度の間隔でピッチを開催していきたい」とのこと。スマート・メディカル、スマート・アグリ、スマート・ファクトリーなどテーマごとのピッチから、大手企業が指定するテーマ

でパートナーを探す「逆ピッチ」方式など、さまざまなイベントが計画されている。運営責任者は「パートナーを探す側も、製品やサービスを売り込む側も、国内外の双方のニーズに合わせてイベントを企画していきたい」と意欲的に話す。今後、活動が注目される施設だ。



写真 23 TTA は 科 技 部 (MOST/Ministry of Technology Taiwan) が主体のプロジェクトで設けられた施設。2018年6月にオープン



写真 24 市街地の中心部にあり交通の便の良いロケーション。写真は海外アクセラレーターとのイベント

## ■ 9 ■ Taiwan Startup Terrace (略称: TST)

新北市林口区仁愛路二段4號/林口新創園

<http://www.startupterrace.tw>

<https://www.facebook.com/startupterrace>

一方、TST (Taiwan Startup Terrace) は台湾の経済部 (MOEA/Ministry of Economic Affairs) が主導的な役割を果たして設けられたインキュ

バージョン施設。經濟部とは日本の経済産業省に当たる政府組織。台北郊外の林口 (lin kou) に設けられた。林口 (lin kou) は桃園机场から台北市内に向かう MRT 桃園空港線のほぼ中間地点。MRT 桃園空港線の「長庚医院站」からタクシーで7～8分ほどの場所にある。

入口を入ってすぐのところに多目的スペースがあり、カラフルな内装で来訪者を迎えてくれる。丸い椅子が壁に埋め込まれていて、イベント時は壁から取り出して使うそうだ。椅子席であれば60～70人ほどはゆったり入れる。立ち見であれば100人以上のイベントも可能だろう。施設内にはコワーキングスペース、リビングスペース、会議室、スタートアップ向けのレンタルオフィスがある。

TST の特徴はスタートアップ向けのレンタルオフィスだけでなく、ビジネスホテルを備えている点である。運営方法は検討されているところであるが、短期滞在者向けのホテル利用から中長期の滞在者向けにも居住スペースを提供する予定であるという。また、台湾で会社を設立したいという海外のスタートアップ・ベンチャー向けに、在留資格(ビザ)の申請アドバイス、会社設立の代行、税務面でのアドバイスなど、台湾国内におけるさまざまな行政手続きを支援する。こうしたサービスは TTA (Taiwan Tech Arena) と比較して大きく違うところだ。

言い換えれば、情報収集や仲間づくりは TTA (Taiwan Tech Arena)、そして本格的に業務を開始してビジネスに乗り出すときは TST (Taiwan Startup Terrace)、目的に応じてうまく使い分けるとよさそうだ。もちろん TTA も TST もすみ分けを明確にして対象者を限定しているわけではない。2つをうまく掛け持ちで利用することも可能だ。たとえば日本のスタートアップ・ベンチャーが台湾でビジネスをする場合、まずは TTA (Taiwan Tech Arena) で情報収集をし、進出を決めたら TST (Taiwan Startup Terrace) で会社設立準備にとりかかる。こんな進め方をお勧めしたい。



写真 25 TST (Taiwan Startup Terrace) の設立は台湾の經濟部 (MOEA/Ministry of Economic Affairs) が主導的な役割を果たす



写真 26 ワーキングスペース、リビングスペース、会議室、スタートアップ向けのレンタルオフィスだけでなく、宿泊施設も併設されているのが特徴

## ■ 10 ■ .InnoVEX (イノベックス) に注目

台北で開催されるスタートアップ・イベント

会場：台北世界貿易センター/台北市信義開発区

<https://innovex.computex.biz>

最後に台北で開催されるスタートアップ・イベントを紹介したい。毎年6月に Computex に併設する形で開催される InnoVEX (イノベックス) である。このイベントは2016年からの開催、今年で第3回目となる。2018年は6月6日(水)から3日間の会期で開催、展示会は展示エリア、Center Stage (センターステージ) で行われるピッチコンテスト、カンファレンスの3つで構成され、今年は台湾と世界21の国と地域から388組の企業や団体が参加して開催された。(InnoVEX2018 に関しては、機関誌「交流」9月号 vol.930 にて

詳しく紹介している。参照いただきたい)

センターステージでは、ピッチコンテストが行われた。今年のエントリーは120チーム、書類審査の上で絞られた28チームがセミファイナルに進み、その中で勝ち残った8チームがファイナリストとして6月8日(金)の最終審査に臨んだ。200席ほどの会場は立ち見ができるほどの盛況ぶりで、レベルの高いプレゼンと審査員との白熱したやり取りが行われた。8チームの中からアメリカのBioinpiraが最優秀賞に選ばれ、優勝賞金は30,000米ドルを獲得した。(詳細は機関誌「交流」9月号 vol.930にてレポート)

一方、筆者がもうひとつ注目しているのは、センターステージの反対側に設けられたPi Stage(パイ・ステージ)である。これは円周率の「 $\pi$ 」をPi(パイ)と表記し、割り切れないこと、無限大を意味する。無限の可能性を持つスタートアップ・ベンチャーを形容する言葉だ。Pi Stage(パイ・ステージ)には50席ほどの客席とミニ・ステージが設けられ、スタートアップ・ベンチャーのプレゼンやマッチングイベント、逆ピッチイベント、商談会などが行われた。

「逆ピッチ」とは、スタートアップ・ベンチャーを探している大手企業側が事前にテーマを公表する方式で進められる。通常のピッチイベントは複数のVC(ベンチャー・キャピタル)や企業がスタートアップ・ベンチャーのプレゼンを聞く形だが、「逆ピッチ」では特定の企業から「〇〇〇分野の技術に興味がある」とか、「〇〇〇を補完してくれるビジネスパートナーを探している」といったテーマが公表され、InnoVEXに先立ち会期前1か月ほど前に説明会が行われた。

主に大手ベンダーを中心に複数の企業がパートナーの募集を呼び掛け、スタートアップ・ベンチャーは事前エントリーで手を挙げる。審査の末、Pi Stage(パイ・ステージ)では複数のスタートアップ・ベンチャーが登壇し、事前のテーマに合わせて自分たちの技術やビジネスモデルを大手

ベンダーに売り込む。当日はセンターステージ同様熱いプレゼンが行われ、会場を盛り上げた。

来年のInnoVEX2019は2019年5月29日(水)から31日(金)まで会期3日間で開催される。日本からの出展及びピッチイベントへの参加も可能。アジアでのビジネス展開、資金調達、台湾大手ベンダーとのアライアンスに興味がある企業はぜひご検討を。欧米や中国における市場開拓、小ロットで生産可能なパートナー探し、または量産パートナー探しなど、InnoVEX(イノベックス)は海外進出の足掛かりを探している日本のスタートアップ・ベンチャーにとって注目のイベントだ。



写真 27 今年のも最優秀賞には Bioinpira が選ばれ、優勝賞金 30,000 米ドルを獲得した



写真 28 InnoVEX 会場内に設けられた Pi Stage (パイ・ステージ)、円周率の「 $\pi$ 」を Pi (パイ) と表記し、割り切れないこと、無限大を意味する